
機動戦士ガンダムOO 世界を変えるガンダム

剣聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダム〇〇 世界を変えるガンダム

【Zコード】

Z0079Z

【作者名】

剣聖龍

【あらすじ】

毎日を退屈に過ごしている木崎魁、新垣健人、西村真由、三藤拓真の4人はある日、4つのペンダントを拾う。

その瞬間、ガンダム〇〇の母艦、プトレマイオス2改に飛ばされ、艦長のスメラギから『ガンダムマイスターになつてくれないかしら?』と、衝撃の言葉を聞く4人。

これは、ガンダムマイスターとなつた少年達が、世界を救つ為に世界を変える物語である。

第一話 謎のペナント(前書き)

新作です。ではじめ。

第1話 謎のペンダント

「ナレーションHIDE」

「…つまんねえ」

木の日陰で寝てこむ少年が咳く。

「あー、いたいた、魁ー！」

「ん？ああ、真由か」

黒髪のポーテールの真由と呼ばれた女子が魁と呼ばれた少年に近寄る。

「また昼寝してるので？」

「まあ、高校つまんないし。真由も同じだろ？」

「まあ、そうだけ…」

真由はそう言って寝てこむ魁の横に座る。

「やつぱり、剣道には入らないの？」

「ああ。なんかもう、昔みたいに面白くないんだよ。真由こそ、サバゲーの方は全然やつて無いじゃないか」

ちなみにサバゲーとはサバイバルゲームの略である。

「私も魁と同じかな…なんかつまらないの」

「て言うか授業も退屈だし。分かる事を最初からやるとかマジで辛い」

「それは健人と拓真も言ってたね。私もだけど」

「だろ?」

そう言つて魁と真由は一度目を合わせ、深々と溜め息を吐いた。
その後、昼休みの終わりを告げるチャイムを聞いた2人はそれぞれの教室、魁は1年4組に、真由は1年3組に戻つていった。

（放課後）

授業が終わり、魁と真由は生徒玄関に来ていた。

「よお、魁、真由」

不意に声を掛けられた2人は後ろを向くと、2人の男子が立つていた。

「健人、それに拓真か」

「どうしたんだい？2人揃つて暗い顔をして」

拓真と呼ばれたメガネを掛けた知的な雰囲気の男子が問い合わせる。

「毎度の事。授業が凄くつまんなかったの」

「そりゃ 言ってるな」

今度は健人と呼ばれた茶髪の飄々とした男子が言う。魁、健人、真由、拓真。

この4人はクラスは違うが小学校からの幼馴染みである。（健人は5組、拓真は1組）

実は4人とも種類は違うがかなりの実力者で、中学3年の時に魁は剣道、健人はクレー射撃、真由はサバイバルゲーム、拓真是Eccleの全国大会で優勝している実績を持つ。

更に周りには隠しているが、勉強に関しても4人は既に東大の卒業生並に頭が良い。（何故かは分からぬ）だが、この4人には悲しい共通点もある。

それは4人とも親が居ない事だ。

4人がまだ小さい頃に起こったとある橋の崩落事故。それに4人の親は運悪く巻き込まれてしまい、この世を去った。

それから身寄りも無い4人は施設に入り、中学、そして今（高校）は寮に入っている。

それ以外にも悲しくはないが共通点があつた。

4人ともガンダムが好きな事だ。

特に好きなのは4人とも『ガンダムOO』。

そんな共通点もあり、4人は仲良くなつたという訳だ。

「ん？ なんだ？」

下駄箱を開けた魁が中にある何かを見つけ、引っ張り出した。
それは青い宝石のようなペンダントだった。

「なんだこりや？」

「あれ？僕の下駄箱にも何かある」

「俺もだ」

「私も」

そう言つて健人、真由、拓真の3人も下駄箱から何かを引っ張り出します。

健人は緑色、真由はオレンジ色、拓真は紫色の宝石のようなペンダントだった。

「なんだろう、これ？」

「宝石…じゃないよな」

「誰かの落とし物でしちゃうか？」

「さあ… 一体なんなんだ？」

4人はそれぞれのペンダントをまじまじと見つめる。その時、4つのペンダントが青白い閃光を放ち、次の瞬間、4人は玄関から消えていた。

（？？？）

「う~ん…」

魁が目を覚まし、周りを見渡す。すると、倒れている健人、真由、拓真を発見した。魁は倒れている3人に近寄り、揺する。すると3人は目を覚ました。

「魁…？」

「良かつた。目が覚めたんだな」

「『』は何処でしようか?」

「学校じゃねえよな」

立ち上がり、魁達は周りを見渡す。

床、壁、天井が白一色で壁と床にはモニターが埋め込まれている。4人はその光景を知っていた。

「おい、『』って…」

「もしかすると…」

「夢じやないよね…?」

「夢じやありません、『』は…」

『『ガンダムOO』のトレーマイオス改のブリーフィングルーム』

4人は同時に叫ぶ。

その時、ブリーフィングルームのドアが開く音がし、その方向には4人の知る人物達が立っていた。

「あ、貴女は！ソレスタルビーアイシングの戦術予報士、スマラギ・李・ノリエガさん！？」

「ええ、そうよ」

「それにオペレーターのフェルト・グレイスにミレイナ・ヴァステイ！？」

「操舵士のラッセ・アイオンさんも！？」

「ついでにイアン・ヴァステイとリンダ・ヴァステイも居る！？」

「ついでってなんだ、ついでって！」

怒るイアンをリンダが宥め、スマラギが口を開いた。

「まず知つてるとと思うけど、私が戦術予報士のスマラギ・李・ノリエガ。木崎魁君、新垣健人君、西村真由さん、三藤拓真君、ソレスタルビーアイシング（以下CB）によつこそ」

「CB…？じゃあ…」

「貴方達の言う通り、トレマイオス改のブリーフィングルームです。私はフェルト・グレイス、オペレーターをやっています」

「回じく、ミレーナ・ヴァステイです！」

フェルトが応え簡単に自己紹介すると、ミレイナも自己紹介した。

「俺はプロマイオス2改の操舵士のラッセ・アイオンだ」

「儂はイアン・ヴァステイ。整備士をやつている」

「私はリンダ・ヴァステイ、イアンの妻よ」

一 僕は木崎魁です

一 僕は新垣健人だ

西村真由です

三藤拓真と申します

CBのメンバーの自己紹介に続き、魁達も自己紹介をする。一通り自己紹介が済むと、再びスメラギが口を開いた。

「単刀直入に言つわ。貴方達4人にガンダムマイスターになつて欲しいの」

『…え?』

4人は思わず耳を疑つた。

絶叫する4人。

「どういう事ですか！？ガンダムマイスターは刹那さん達じゃないんですか！？」

「まだ言つてなかつたわね。私達はCBだけど、『本物のCBじゃない』」

「どういつ事ですか？」

「私達はガンダム〇〇のCBを元にして生まれたCB。私達の目的は様々な世界の監視、及びバグ世界になりかけの世界への武力介入よ」

「様々な世界の監視？」

「バグ世界？」

聞き慣れない単語に、4人は首を傾げる。

「一言に“世界”と言つても色々な世界、幾つものパラレルワールドが存在する。当然中には存在し続ける世界もあれば消滅する世界もある。でも消滅する筈の世界に突然“バグ”と言つものが発生し、他の世界に影響を与える“バグ世界”と呼ばれるものになってしまつ。そうなつたらその世界は破壊するしか無くなるわ」

『.....』

「でもバグが発生したからと言つて、必ずしもその世界を破壊しなければいけない訳じゃない。バグが侵食し切る前に世界を変えれば

バグは変革に耐えきれず、破壊されるわ。そして私達のCBのガンダムマイスターの使命は世界を変える為に闘つて貰う事よ。でもいくら私達〇〇から生まれたからといって、流石に向こうのガンダムマイスターまではそのまま連れてこれず、私達は別の世界からマイスターを集める事にした。そしてそれに選ばれたのが…」

「僕達、と言つて貰ですね？」

スマラギの言葉を魁が続けた。

「そう言つ事。で、やつてくれるかしら?」

スマラギが問い合わせると、魁達は黙り込んでしまう。

「あの…世界を変えるつて事は、やつぱり、人を殺すんですか?」

真由が質問する。

「…ええ、そうよ。そのせいで今までガンダムマイスターの候補だった者達は次々と降りていったわ」

当然である。誰だつて人を殺したくない。

しかも、CBはテロリストとも取れるため、言い方を変えれば“テロリストになれ”と言われているのと同じだ。

沈黙する4人。だが、突如それを破つた者が現れた。

「僕、やります!」

そう言つたのは魁だ。

「魁！？」

「理由を聞かせてくれるかしら？」

「…僕は向こうの世界で剣道で優勝してから殆どの事がつまらなくなりました。でも、〇〇を見て、自分も世界を変えてみたい、ガンダムの力を信じてみたいと思つたんです。だから、お願ひします…」

「…分かつたわ。木崎魁君、貴方をCBのガンダムマイスターとします」

「はい！」

「お前達はどうあるんだ？」

依然、黙り込んでいる3人にラッセが問い合わせる。

「…俺もやる。俺も魁と同じで、世界を変えてみたい！」

「私も！魁だけには任せることなんて出来ません！」

「僕も、ガンダムを信じてみたいです！」

「…良いのね？後戻りは出来ないわよ」

「覚悟の上です」

4人を代表して、魁が応える。

「分かつたわ。貴方達4人をCBのガンダムマイスターとします。

でも色々と準備もあるでしょうから今日はこれまで。明日の午後7時30分に貴方達の学校の屋上にそれぞれペンドントを持って来て頂戴

「

『はい!』

（次の日）

一晩たつた今日、魁達は朝から自室にてそれぞれ準備をしていた。リュックやカバンに荷物を積めていた。

（魁自室）

「よし、これで最後だ」

リュックに荷物を入れ終わり、魁はチャックを閉める。
最後に青いペンダントを首に掛けた。

「後は…時間まで待つ位しかないか」

そう呟く魁。その他の3人も時間まで自室で過ごしたのだった。

（夜、7時30分）

学校の屋上には魁達4人が居た。

彼等は既に決心している。ガンダムマイスターとして闘う事を。

そしてそれが首に掛けているペンダントが青白い輝きを放つた。

「…行け、
留」

「ああ」

「うん」

「分かつてますよ」

そして4人はその世界から消えた。

第一話 謎のペントアント（後書き）

感想等お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0079z/>

機動戦士ガンダムOO 世界を変えるガンダム

2011年11月30日17時55分発行